



社会福祉法人^{恩賜}財団 済生会支部東京都済生会
東京都済生会中央病院
内科専門医研修プログラム

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムでは、東京都区中央部(以下「都区中央部」)医療圏の中心的な急性期病院である東京都済生会中央病院を基幹施設として、都区部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て東京都の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での原則3年間(基幹施設2年間+連携施設1年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャリティ分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

- 1) 都区中央部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 東京都済生会中央病院は、都区中央部医療圏の中心的な急性期病院です。三次救急も行う救命センターもありますし、病診連携を生かした地域連携病院として、広汎な大学病院では得られない豊富な症例を経験することができます。内科系プログラムは30年以上の歴史があり、すべての診療領域の内科研修を行い総合的な内科医として全人的医療を行える基礎の上に、さらにサブスペシャリティの専門医を目指す研修を行ってきました。現在では、このプログラムで研修された卒業生が、全国各地で専門医として、また地域診療を支える総合内科医として活躍しています。

- 2) 内科系研修は各診療科の主治医とマンツーマンの組み合わせで受持医として担当し、専攻医(内科専攻医)と初期研修医が同じ病棟で常に交流しながら教えあうことで研修を行ってきました。指導する主治医は内科指導医、サブスペシャリティの専門医、臨床指導医であり、また、指導する主治医には東京都済生会中央病院のプログラムを経験した医師も多くいます。大学や研究施設とは異なり、臨床に特化した研修を行ってきています。
- 3) さらに本プログラムの最大の特徴としては、これまでの研修においても行ってきたように、生活支援を必要とする患者さんが入院する病棟(以前の民生病棟)で総合診療内科ローテーションを行い、さらにチーフレジデントを経験することにより病棟においては実務のリーダーとして、初期研修医の教育、コマディカルの指導を通じて、病棟運営にも参加することが可能です。この経験を通して、内科医としての総合力も身につけることは元より、内科専門医としての総仕上げを行うことが出来る、他施設にはないユニークかつ魅力的なプログラムとなっています。なお、チーフレジデントは原則として専攻医 3 年目に本人の希望により選ばれます。希望者がいない場合は東京都済生会中央病院内科専門医研修管理委員会により選出、任命されます。
- 4) 本プログラムでは、都区中央部医療圏の中心的な急性期病院である東京都済生会中央病院を基幹施設として、これまでのプログラムに加えて、さらに都区部医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。当院でこれまで行ってきた内科専攻医プログラムでは、東京都済生会のもう一つの病院である東京都済生会向島病院での研修を組み込んできました。規模の異なる病院での研修は内科の総合力をつける有意義な経験が得られたと考えています。今回のプログラムでも東京都済生会向島病院での研修を連携施設のひとつとして継続して行っていく予定です。研修期間は原則として、基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間の 3 年間になります。
- 5) 東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 6) 基幹施設である東京都済生会中央病院は、都区中央部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
- 7) 基幹施設と連携施設の 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(以後、J-OSLER と表記)に登録します。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形式的指導を通じて、内科専門医ボード評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成します(P.62 別表 1 「内科専門研修において求められている「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」を参照)。
- 8) 東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年間のうち 1 年間程度、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。これは、内科学会からの基幹施設以外での研修期間として定められている研修項目に相当します。
- 9) 基幹施設である東京都済生会中央病院と専門研修施設群(専攻医 3 年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。初期研修での研修内容にかかわらず、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします(P.62 別表 1 「内科専門研修において求められている「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」を参照)。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- ② 内科系救急医療の専門医

③ 病院での総合内科(Generality)の専門医

④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出します。

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、都区中央部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャリティ領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本プログラムでの研修で得られる成果です。

継続したサブスペシャリティ領域の研修(並行研修について)

- ・ 当院では 30 年以上にわたって内科サブスペシャリティの専修医研修を行ってきました。その骨子は、最初の 2 年間はすべての内科を回って一般内科全般を経験し研修した基礎の上にサブスペシャリティの専門医取得するというものです。これまでの実績では内科認定医を取得後、サブスペシャリティ専門医もほぼ最短で取得している実績があります。今回、サブスペシャリティの平行研修が認められておりますが、本プログラムでは従来の一般内科全般研修をきちんと行い、基礎固めをした上でサブスペシャリティ研修を行うという方針は変更しない予定です。従いまして、これまでの当院の内科専修医研修との一番の大きな変更は、1 年間の連携施設研修期間が必修になっている点と言えます。
- ・ ほとんどの内科サブスペシャリティの指導医が常勤し、教育施設になっていますので、内科全般の研修を早期に仕上げることで、それらの専門医を最短で取得できる可能性があります。
- ・ 当院が教育施設として認定を受けており、当院で取得可能な内科関連サブスペシャリティ学会には以下のものがあります。

日本消化器病学会
日本肝臓学会
日本循環器学会
日本内分泌学会
日本糖尿病学会
日本腎臓学会
日本呼吸器学会
日本血液学会
日本神経学会
日本感染症学会
日本アレルギー学会
日本老年医学会
日本臨床腫瘍学会
日本消化器内視鏡学会

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)~8)により、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は、1 学年 5 名とします。

- 1) 東京都済生会中央病院内科専攻医は 3 学年併せて 15 名で 1 学年 2~8 名の実績があります。
- 2) 剖検体数は内科のみで 2023 年度 7 体(全科で 9 体)、2024 年度 3 体(全科で 5 体)です。

表. 東京都済生会中央病院診療科別診療実績

2024 年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
総合診療・感染症内科	200	9,747

脳神経内科	630	14,117
呼吸器内科	806	9,770
消化器内科	1,457	16,005
血液内科	778	9,565
腎臓内科	537	8,041
リウマチ内科	-	2,710
糖尿病・内分泌内科	477	24,985
腫瘍内科	519	4,007
循環器内科	890	5,391
救急診療科	654	15,454

- 3) 膠原病(リウマチ)領域は常勤専門医が不在ですが、週 2～3 回の専門外来患者診療と連携施設にて十分な症例を経験可能です。
- 4) リウマチ以外の各領域の専門医は複数名在籍しています(P.14「東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の研修施設」を参照)。
- 5) アレルギーと感染症については上記各診療科の中で症例経験が可能です。
- 6) 基幹病院として1学年5名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。
- 7) 連携施設には、高次機能・専門病院5施設、地域基幹病院12施設および地域医療密着型病院1施設、計18施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。
- 8) 専攻医3年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも56疾患群、160症例以上の診療経験は容易に達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]
 専門知識の範囲(分野)は、「総合診療内科」、「神経」、「呼吸器」、「消化器」、「血液」、「腎臓」、「糖尿病・内分泌」、「腫瘍」、「循環器」、「膠原病」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。
- 2) 専門技能【整備基準5】[「技術・技能評価手帳」参照]
 内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャリティ専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準8～10】(P.62 別紙1「内科専門研修において求められている「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」を参照) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。
 - ① 専門研修(専攻医)1年次:
 - ・ 症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める70疾患群のうち、少なくとも20疾患群、60症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
 - ・ 専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載してJ-OSLER に登録します。
 - ・ 技能:研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医とともに行うことができます。
 - ・ 態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを行います。

② 専門研修(専攻医)2年次:

- ・この1年間は原則として、内科学会専門研修プログラムに定められた連携施設での1年間の研修期間になる予定です。
- ・症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める70疾患群のうち、通算で少なくとも45疾患群、120症例以上の経験をし、J-OSLERにその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載してJ-OSLERへの登録を終了します。
- ・技能:研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医の監督下で行います。
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

③ 専門研修(専攻医)3年次:

- ・症例:主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上(外来症例は1割まで含むことができます)を経験し、J-OSLERにその研修内容を登録します。2年次までに目標に達している場合には、サブスペシャリティ研修を開始する柔軟なプログラムも考慮します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理(アクセプト)を一切認められないことに留意します。
- ・技能:内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。サブスペシャリティ研修を開始した場合には担当サブスペシャリティによる診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うようサブスペシャリティ上級医による指導が行われます。
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70疾患群中の56疾患群以上で計160症例以上の経験を必要とします。J-OSLERにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認によって目標を達成します。

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(原則、基幹施設2年間+連携施設1年間)としますが、やむを得ない事情などにより修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します(下記1)~5)参照)。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくはサブスペシャリティの上級医(症例指導医)の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院(初診・入院~退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

- ② 定期的(毎週 1 回)に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合外来(初診を含む)およびサブスペシャリティ診療科外来(初診を含む)を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、サブスペシャリティ診療科検査を担当します。

専門研修の週間スケジュールの例を P.63 別表 2 に示します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1)内科領域の救急対応, 2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解, 3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項, 4)医療倫理, 医療安全, 感染防御, 臨床研究や利益相反に関する事項, 5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項, などについて, 以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的(毎週 1 回程度)に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ CPC(基幹施設 2024 年度実績 5 回)
- ④ 研修施設群合同カンファレンス(2026 年度開催予定)
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス(医師会と合同主催の講演会や研究会)
- ⑥ JMECC 受講(2026 年度開催予定)
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年目もしくは 2 年目までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会(下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照)
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会 など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A(病態の理解と合わせて十分に深く知っている)と B(概念を理解し、意味を説明できる)に分類、技術・技能に関する到達レベルを A(複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、B(経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、C(経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる)に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A(主担当医として自ら経験した)、B(間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した)、C(レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した)と分類しています。(「研修カリキュラム項目表」参照)自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題 など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を Web ベースで日時を含めて記録します。

- ・ 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・ 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・ 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理(アクセプト)されるまでシステム上で行います。
- ・ 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・ 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例: CPC, 地域連携カンファレンス, 医療倫理・医療安全・感染防御講習会)の出席をシステム上に登録します。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した(P.22～P.61「2) 専門研修連携施設」を参照)。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である東京都済生会中央病院人材育成センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う(EBM; evidence based medicine)。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)。
- ④ 診断や治療の Evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

さらに、毎年 1 回開催される専門医発表会において、症例あるいは臨床研究に関する発表を行います。研究発表に関しては、指導医が指導する以外に、臨床研究センター及び医療情報管理分析室がサポートし、臨床研究の行い方についても習得します。

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します(必須)。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシヤルティ学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として 2 件以上行います。

研究発表に関しては、指導医が指導する以外に、臨床研究センター及び医療情報管理分析室がサポートし、臨床研究の行い方についても習得します。

なお、専攻医が、社会人大学院入学などを希望する場合でも、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、サブスペシヤルティ上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である東京都済生会中央病人材育成センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢

- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の研修施設は都区中央部医療圏、近隣医療圏および栃木県・埼玉県・千葉県・神奈川県内の医療機関から構成されています(P.14「東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の研修施設」を参照)。

東京都済生会中央病院は、都区中央部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけることもできます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である、がん研究会有明病院、慶應義塾大学病院、国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センター病院、東京大学医科学研究所附属病院、地域基幹病院である永寿総合病院、川崎市立井田病院、川崎市立川崎病院、北里大学北里研究所病院、国家公務員共済組合連合会立川病院、東京歯科大学市川総合病院、横浜市立市民病院、平塚市民病院、栃木県済生会宇都宮病院、佐野厚生総合病院、さいたま市立病院、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構東京医療センターおよび地域医療密着型病院である東京都済生会向島病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、東京都済生会中央病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

東京都済生会中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。

11.内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】

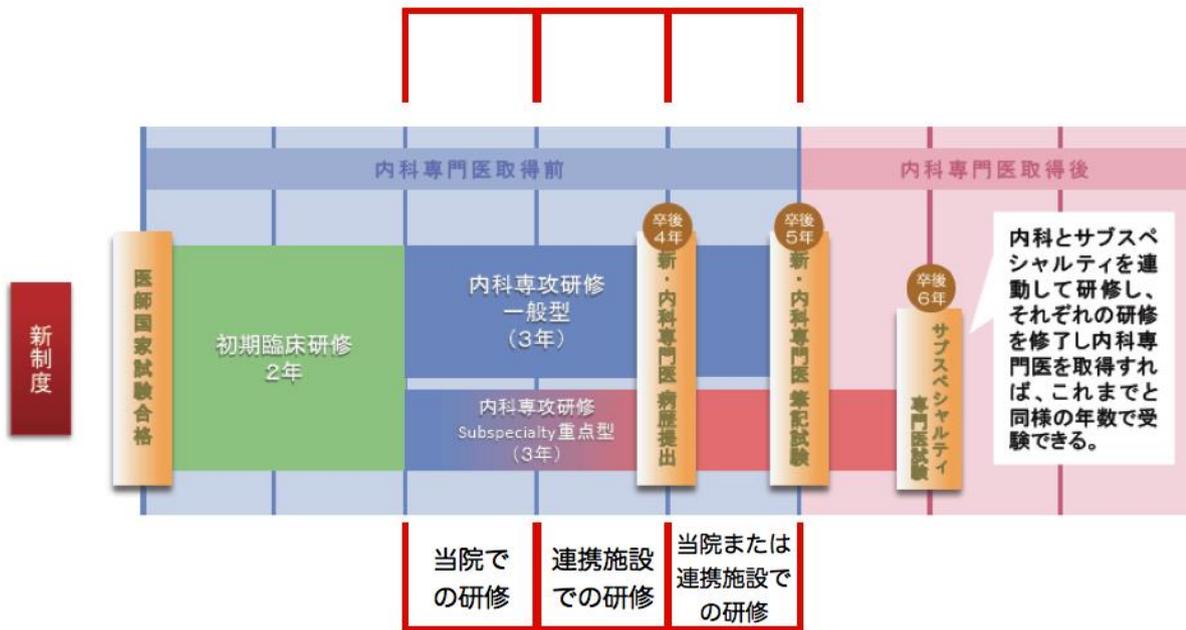


図 1. 東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム(概念図)

基幹施設である東京都済生会中央病院内科と連携施設で、専門研修(専攻医)1年目と2年目に2年間の専門研修を行います。専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)などを基に、専門研修(専攻医)3年目の研修方針を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修(専攻医)3年間のうち1年間は、連携施設で研修をします(図1)。3年目の研修としては、研修達成度によって、

- ① 達成されていない領域の内科研修を基幹施設、連携施設で行う
- ② チーフレジデント
- ③ サブスペシャリティの専門医を目指す場合には、研修達成度によってはサブスペシャリティ研修の組み合わせが可能です。本プログラムでは、より専門的で柔軟な研修が可能なように、最初の2年間で内科必要症例を経験できるように研修することを推奨します。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

- 1) 東京都済生会中央病院人材育成センターの役割
 - ・ 本プログラム内科専門医研修管理委員会の事務局を担います。
 - ・ 本プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER にカテゴリー別の充足状況を確認します。
 - ・ 3ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医に J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 6ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 6ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 年に複数回(8月と2月、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って、改善を促します。

- ・ メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を毎年複数回(8 月と 2 月, 必要に応じて臨時に)行います. 担当指導医, サブスペシャリティ上級医(症例指導医)に加えて, 看護師長, 看護師, 薬剤師, 臨床検査・放射線技師・臨床工学技士, 事務員などから, 接点の多い職員 5 人を指名し, 評価します. 評価表では社会人としての適性, 医師としての適正, コミュニケーション, チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します. 評価は無記名方式で, 人材育成センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し, その回答は担当指導医が取りまとめ, J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません). その結果は J-OSLER を通じて集計され, 担当指導医から形式的にフィードバックを行います.
 - ・ 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します.
- 2) 担当指導医の役割
- ・ 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム委員会により決定されます.
 - ・ 専攻医は web にて日本内科学会専門医登録評価システムにその研修内容を登録し, 担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします. この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
 - ・ 専攻医は, 1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群, 60 症例以上の経験と登録を行うようにします. 2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群, 120 症例以上の経験と登録を行うようにします. 3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群, 160 症例以上の経験の登録を修了します. サブスペシャリティの研修を早期に開始することが可能なように, 2 年間で目標症例を経験するよう推奨します. それぞれの年次で登録された内容は都度, 担当指導医が評価・承認します.
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り, J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や人材育成センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します. 専攻医はローテート先の診療科サブスペシャリティの上級医(症例指導医)と面談し, 専攻医が経験すべき症例について報告・相談します. 担当指導医とサブスペシャリティの上級医は, 専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう, 主担当医の割り振りを調整します.
 - ・ 担当指導医はサブスペシャリティ上級医と協議し, 知識, 技能の評価を行います.
 - ・ 専攻医は, 専門研修(専攻医)2 年修了時までには 29 症例の病歴要約を順次作成し, J-OSLER に登録します. 担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し, 内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し, 形式的な指導を行う必要があります. 専攻医は, 内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき, 専門研修(専攻医)3 年次修了までにはすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します. これによって病歴記載能力を形式的に深化させます.
- 3) 評価は年度ごとに担当指導医が評価を行い, 基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します. その結果を年度ごとに東京都済生会中央病院内科専門医研修管理委員会で検討し, 統括責任者が承認します.
- 4) 修了判定基準【整備基準 53】
- ① 担当指導医は, J-OSLER を用いて研修内容を評価し, 以下 i)～vi)の修了を確認します.
- i) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し, 計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができます)を経験することを目標とします. その研修内容を J-OSLER に登録します. 修了認定には, 主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 16 症例まで含むことができます)を経験し, 登録を済ませます(P.62 別表 1 「内科専門研修において求められている「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」を参照).
 - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形式的評価後の受理(アクセプト)
 - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講

vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し, 社会人である医師としての適性

- ② 東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会は, 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し, 研修期間修了約 1 ヶ月前に内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」, 「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は, J-OSLER を用います。なお, 「東京都済生会中央病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「東京都済生会中央病院内科専門医研修指導者マニュアル」【整備基準 45】を別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37~39】

(P.21「東京都済生会中央病院内科専門医研修管理委員会」参照)

東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラムの管理運営体制の基準

- 1) 内科専門研修医プログラム管理委員会にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

内科専門医研修プログラム管理委員会は, 統括責任者(内科部長), 副統括責任者(担当部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医), 事務局代表者, 内科サブスペシャリティ分野の研修指導責任者(担当部長, 医長, 副医長)および連携施設担当委員で構成されます。また, オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます(P.20 東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会参照)。本プログラム内科専門医研修管理委員会の事務局を, 東京都済生会中央病院人材育成センターにおきます。

- 2) 本プログラム内科専門医研修施設群は, 基幹施設, 連携施設ともに内科専門医研修委員会を設置します。委員長 1 名(指導医)は, 基幹施設との連携のもと, 活動するとともに, 専攻医に関する情報を定期的に共有するために, 毎年 6 月と 12 月に内科専門医研修管理委員会を開催します。

基幹施設, 連携施設ともに, 毎年 4 月 30 日までに, 東京都済生会中央病院内科専門医研修管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

a) 病院病床数 b) 内科病床数 c) 内科診療科数 d) 1 ヶ月あたり内科外来患者数 e) 1 ヶ月あたり内科入院患者数 f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績 b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数 c) 今年度の専攻医数 d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表 b) 論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分 b) 指導可能領域 c) 内科カンファレンス d) 他科との合同カンファレンス e) 抄読会 f) 机 g) 図書館 h) 文献検索システム i) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する研修会 j) JMECC の開催

⑤ サブスペシャリティ領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数, 日本循環器学会循環器専門医数,
日本内分泌学会専門医数, 日本糖尿病学会専門医数, 日本腎臓病学会専門医数,
日本呼吸器学会呼吸器専門医数, 日本血液学会血液専門医数,
日本神経学会神経内科専門医数, 日本アレルギー学会専門医(内科)数,
日本リウマチ学会専門医数, 日本感染症学会専門医数, 日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として, J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修(専攻医)は基幹施設である東京都済生会中央病院の就業環境に基づいて就業しますが、連携施設で研修中は研修先の就業環境に基づき、就業します(P.14「東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の研修施設」を参照)。

基幹施設である東京都済生会中央病院の整備状況:

- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・ 東京都済生会中央病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(心の健康づくり相談室メンタルヘルスサポート)があります。
- ・ ハラスメント相談窓口が院内に整備されています。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.14「東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の研修施設」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

2024 年度以降、診療に従事する勤務医には医師の働き方改革に基づき時間外・休日労働時間の上限規制が適用されます。当院は A 水準であり、内科専攻医も年間の上限については 960 時間となります。また、月の時間外は最高 100 時間までになります。当院の内科専攻医プログラムでもこの規定に従ってローテーションして頂きます。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・ 担当指導医、施設の内科研修委員会、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、本内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して本専門研修プログラムを評価します。
- ・ 担当指導医、各施設の内科研修委員会、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専門医登録評価システムを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立て

ます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立
てます。

3) 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

東京都済生会中央病院人材育成センターと内科専門医研修プログラム管理委員会は、本内科専門医
研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応しま
す。その評価を基に、必要に応じて本内科専門医研修プログラムの改良を行います。

本内科専門医研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日
本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度の
プログラムへの応募者は、東京都済生会中央病院人材育成センターwebsite の東京都済生会中央病院医
師募集要項(東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム:内科専攻医)に従って応募します。書類
選考および面接を行い、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会において協議の上
で採否を決定し、本人に文書で通知します。(問い合わせ先)東京都済生会中央病院人材育成センター
HP: <https://www.saichu.jp/medical-personnel/crincial-practice-top/>

東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を
行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム異動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門医研修プログラムの異動が必要になった場合には、適切に J-
OSLER を用いて本内科専門医研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。
これに基づき、東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会と異動後のプログラム管理委
員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門
研修プログラムから本内科専門医研修プログラムへの異動の場合も同様です。

他の領域から本内科専門医研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門
研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をし
ている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専
門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに本内科専門医研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、
J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修
委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、
かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の
休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1日8
時間、週5日を基本単位とします)を行なうことによって、研修実績に加算します。

留学期間は、原則として研修期間として認めません。

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群
 (地方型一般病院のモデルプログラム)
 研修期間:3年間(原則, 基幹施設2年間+連携施設1年間)

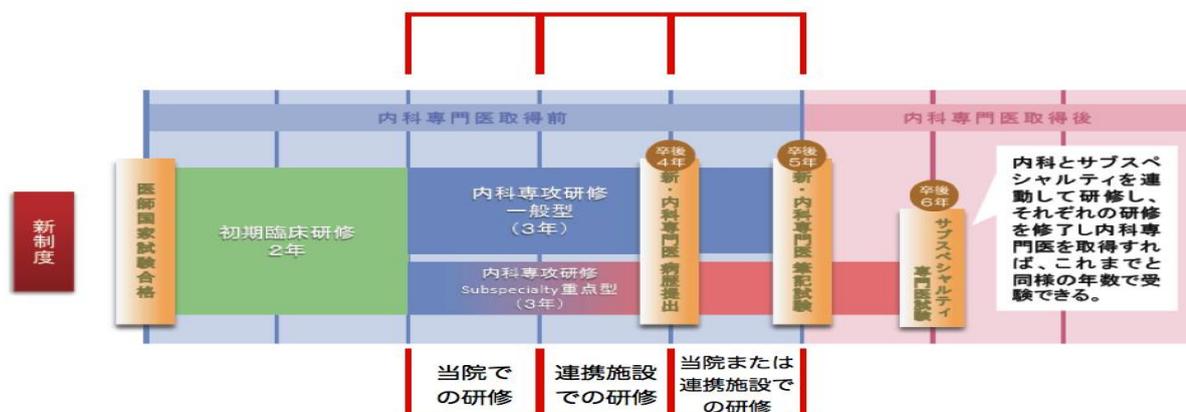


図 1. 東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム(概念図)

東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群の研修施設

表 1. 各研修施設の概要

施設	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科指 導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹	東京都済生会中央病院	523	305	11	26	27	3
連携	永寿総合病院	400	217	8	20	11	5
連携	川崎市立川崎病院	713	210	12	34	23	9
連携	川崎市立井田病院	383	140	15	11	16	8
連携	北里大学北里研究所病院	329	80	6	19	6	9
連携	国立がん研究センター中央病院	578	358	14	6	24	15
連携	国立成育医療研究センター病院	490	5	3	0	6	0
連携	公益財団法人がん研究会有明病院	686	280	24	18	41	7
連携	慶應義塾大学病院	950	331	9	113	84	19
連携	国家公務員共済組合連合会立川病院	450	170	9	23	18	8
連携	東京歯科大学市川総合病院	511	195	5	31	17	9
連携	東京大学医科学研究所附属病院	122	87	4	16	22	11
連携	横浜市立市民病院	650	混合病棟	9	37	20	10
連携	平塚市民病院	416	140	5	16	12	5
連携	栃木県済生会宇都宮病院	644	221	9	27	24	4
連携	JA 佐野厚生連佐野厚生総合病院	531	160	8	11	10	11
連携	さいたま市立病院	637	268	10	26	20	10
連携	国立病院機構埼玉病院	550	222	11	21	19	2
連携	国立病院機構東京医療センター	640	218	11	42	35	7
連携	東京都済生会向島病院	102	85	8	4	9	1

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合診療	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
東京都済生会中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
永寿総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎市立川崎病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎市立井田病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
北里大学北里研究所病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	×
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	△	△	×	○	○	×	×	△	×	×
国立成育医療研究センター病院	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×	○
公益財団法人がん研究会有明病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
慶應義塾大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国家公務員共済組合連合会立川病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
東京歯科大学市川総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京大学医科学研究所附属病院	△	○	×	△	△	×	×	○	×	○	○	○	×
横浜市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
平塚市民病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△	○	○
栃木県済生会宇都宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
JA 佐野厚生連佐野厚生総合病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
さいたま市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△
国立病院機構埼玉病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立病院機構東京医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都済生会向島病院	○	○	○	△	○	△	○	×	○	○	×	△	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○, △, ×)に評価しました。

(○:研修できる, △:時に経験できる, ×:ほとんど経験できない)

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。東京都済生会中央病院内科専門医研修施設群研修施設は千葉県・神奈川県および東京都内の医療機関から構成されています。

東京都済生会中央病院は、都区中央部医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である、がん研有明病院、慶應義塾大学病院、国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センター病院、東京大学医科学研究所附属病院、地域基幹病院である永寿総合病院、川崎市立井田病院、川崎市立川崎病院、北里大学北里研究所病院、国家公務員共済組合連合会立川病院、東京歯科大学市川総合病院、横浜市立市民病院、平塚市民病院、栃木県済生会宇都宮病院、佐野厚生総合病院、さいたま市立病院、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構東京医療センターおよび地域医療密着型病院である東京都済生会向島病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を

研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、東京都済生会中央病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設(連携施設)の選択

- ・ 専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・ 連携施設での研修先および組み合わせについては、連携施設側の状況を踏まえ、流動的に調整します。期間施設である当院と連携施設という複数の医療期間が関わることとなりますので、その時の条件によって、希望する通りの連携施設先での研修ができない場合もあります。
- ・ 病歴提出を終える専攻医 3 年間の 1 年間以上、連携施設で研修をします(P.14)。なお、研修達成度によってはサブスペシャリティ研修も可能です(個々人により異なります)。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

都区中央部医療圏と近隣医療圏および栃木県・埼玉県・千葉県・神奈川県内の医療機関から構成しています。最も距離が離れている栃木県済生会宇都宮病院は栃木県にあるが、東京都済生会中央病院から電車を利用して、1 時間 30 分程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いと思われま

1) 専門研修基幹施設

東京都済生会中央病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(心の健康づくり相談室メンタルヘルスサポート)があります。 ・ハラスメント対策が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 26 名在籍しています。 ・内科専門医研修プログラム管理委員会(統括責任者, 副統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医))にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修管理委員会を設置します。その事務局として人材育成センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的猶予を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2026 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的猶予を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的猶予を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(医師会と合同主催の講演会や研究会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的猶予を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2026 年度開催予定)を義務付け、そのための時間的猶予を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に人材育成センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 7 体, 2024 年度 3 体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターなどを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究倫理審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>プログラム統括責任者:河合俊英 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都済生会中央病院は、東京都区中央部医療圏の中心的な急性期病院です。三次救急を行う救命センターもあり、病診連携を生かした地域連携病院として、大学病院では得られない豊富な症例を経験することができます。内科系プログラムは 30 年以上の歴史があり、すべての診療領域の内科研修を行い総合的な内科医として全人的医療を行える基礎の上に、さらにサブスペシャリティの専門医を目指す研修を行ってきました。現在では、このプログラムで研修された卒業生が、全国各地で専門医として、また地域診療を支える総合内科医として活躍しています。内科系研修は各診療科の主治医とチームを組み受持医として担当し、専修</p>

	<p>医・研修医が同じ病棟で常に交流しながら教えあうことで研修を行ってきました。指導する主治医は内科指導医、各サブスペシャリティの専門医、臨床指導医であり、また、東京都済生会中央病院のプログラムを経験した医師も多くいます。大学や研究施設とは異なり、臨床に特化した研修を行ってきています。</p> <p>さらにプログラムの最大の特徴としては、これまでの研修においても行ってきたように、生活支援を必要とする患者さんが入院する病棟(以前の民生病棟)で総合診療内科ローテーションを行い、さらにチーフレジデントを経験することにより、病棟においては実務のリーダーとして、初期研修医の教育、コメディカルの指導を通じて、病棟運営にも参加することが可能です。この経験を通して、内科医としての総合力も身につけることは元より、内科専門医としての総仕上げを行うことが出来、他施設にはないユニークかつ魅力的なプログラムとなっています。</p> <p>本プログラムでは、都区中央部医療圏の中心的な急性期病院である東京都済生会中央病院を基幹施設として、これまでのプログラムに加えて、さらに都区部医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則として、基幹施設 2 年間 + 連携施設 1 年間の 3 年間になります。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 26 名、 日本内科学会総合内科専門医 27 名、 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、 日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、 日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本感染症学会専門医 0 名、 日本肝臓学会肝臓病専門医 4 名、 日本救急医学会救急科専門医 7 名 ほか</p>
外来・入院患者数	内科外来患者数 9,983 名(1ヶ月平均) 内科入院患者数 7,461 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会専門研修プログラム 基幹施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医教育認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設</p>

日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会専門研修プログラム 基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本感染症学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 など

東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会（令和7年4月現在）

東京都済生会中央病院

河合 俊英(プログラム統括責任者, 内分泌・代謝分野責任者)
小松 素明(プログラム副統括責任者, 腎臓分野責任者)
高橋 寿由樹(研修管理委員長, 循環器分野責任者)
中澤 敦(副院長, 消化器分野責任者)
足立 智英(総合診療・感染症分野責任者)
菊池 隆秀(血液・膠原病分野責任者)
高橋 左枝子(呼吸器・アレルギー分野責任者)
船越 信介(腫瘍内科担当部長)
大木 宏一(神経分野責任者)
山田 哲(脳神経内科医長)
塚田 唯子(血液内科医長)
香月 健志(糖尿病・内分泌内科医長)
長谷川 祐(循環器内科医長)
鈴木 健之(循環器内科医長)
平田 直己(循環器内科医長)
遠藤 彩佳(循環器内科副医長)
岸野 竜平(消化器内科医長)
三枝 慶一郎(消化器内科副医長)
小坂邊 徳子(事務局代表, 人材育成センター事務担当)

連携施設担当委員

永寿総合病院	吉田 英雄
川崎市立井田病院	西尾 和三
川崎市立川崎病院	高木 英恵
北里大学北里研究所病院	福田 誠一
国立がん研究センター中央病院	大江 裕一郎
国立成育医療研究センター病院	荒田 尚子
がん研有明病院	高野 利実
慶應義塾大学病院	福永 興壺
国家公務員共済組合連合会 立川病院	森谷 和徳
東京歯科大学市川総合病院	大木 貴博
東京大学医科学研究所附属病院	山本 元久
横浜市立市民病院	仲里 朝周
平塚市民病院	高木 俊介
栃木県済生会宇都宮病院	増田 義洋
佐野厚生総合病院	井上 卓
さいたま市立病院	金子 文彦
国立病院機構埼玉病院	石川 晴美
国立病院機構東京医療センター	上野 博則
東京都済生会向島病院	塚田 信廣

オブザーバー

内科専門医代表 1	岩下 紘士
内科専門医代表 2	伊崎 慶史郎
内科専門医代表 3	堤 遼太郎
内科専門医代表 4	亀山 翔平

東京都済生会中央病院内科専門医研修管理委員会（令和7年4月現在）

東京都済生会中央病院

河合 俊英(プログラム統括責任者, 内分泌・代謝分野責任者)
小松 素明(プログラム副統括責任者, 腎臓分野責任者)
高橋 寿由樹(研修管理委員長, 循環器分野責任者)
中澤 敦(副院長, 消化器分野責任者)
足立 智英(総合診療・感染症分野責任者)
菊池 隆秀(血液・膠原病分野責任者)
高橋 左枝子(呼吸器・アレルギー分野責任者)
船越 信介(腫瘍内科担当部長)
大木 宏一(神経分野責任者)
山田 哲(脳神経内科医長)
塚田 唯子(血液内科医長)
香月 健志(糖尿病・内分泌内科医長)
長谷川 祐(循環器内科医長)
鈴木 健之(循環器内科医長)
平田 直己(循環器内科医長)
遠藤 彩佳(循環器内科副医長)
岸野 竜平(消化器内科医長)
三枝 慶一郎(消化器内科副医長)
小坂邊 徳子(事務局代表, 人材育成センター事務担当)

オブザーバー

内科専門医代表 1	岩下 紘士
内科専門医代表 2	伊崎 慶史郎
内科専門医代表 3	堤 遼太郎
内科専門医代表 4	亀山 翔平

2) 専門研修連携施設

1. 永寿総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型・協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・永寿総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等が整備されています。 ・病院近傍に病院契約保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の総医師数は 2024 年 4 月現在 100 名を超えています。内科専門医制度認定基準を満たす内科指導医は 20 名の在籍です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に各複数回開催しております。専攻医には受講を義務付けており、そのための時間的余裕も与えます。 ・CPC を年に 5 回程度開催し、専攻医には受講、発表を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC 受講を義務付け、そのための時間的猶予を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは年 3 回を原則に開催し、コロナによる障害がなければ、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表を行っており、2022 年度は計 14 演題学会発表を行なっています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>吉田英雄【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>永寿総合病院は、交通の要衝である上野駅から徒歩 5・6 分圏内の好立地にあり、慶應大学医学部中核関連病院として優秀なスタッフを有し、多くの研修医や専攻医(専攻医)を受け入れてきました。2022 年度は 3560 台の救急車を受け入れ、台東区の基幹病院として地域医療に貢献しております。日本内科学会認定医制度教育病院であり、屋根瓦式の研修を基本とし、上級医に気軽に相談できる環境を整え、医療安全にも配慮しながら質の高い臨床研修を目指しております。専門性の高い疾患の診療に従事しながら、主担当医として現場で医療を実践していくことが可能です。内科専門医をめざして、効果的に研修を行うことができることはもちろんですが、病院勤務で疲弊しないように配慮をしております。全人的医療を実践できる幅広い臨床能力を培う場を提供したいと考えております。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 20 名、 日本内科学会総合内科専門医 11 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、</p>

	日本老年医学会専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 81494 名 (2022 年度), 内科入院患者 3662 名 (2022 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本頭痛学会准教育施設 日本老年医学会教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本病理学会研修登録施設 など

2. 川崎市立井田病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署(総務局担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・JMECCを毎年開催しております。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付けています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、参加するための時間を与えます。 ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、参加するための時間を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 8 演題の学会発表を行いました(2022 年度実績)。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>鈴木貴博(副院長) 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎市立井田病院は、東急東横線の間にある日吉駅から徒歩圏内というアクセスに恵まれた環境にあります。がん拠点病院として健診から緩和医療までシームレスな医療を提供する一方、急性期病院として二次救急を行っており、内科の年間入院症例数は 3,855 例(2023 年度実績)です。サブスペシャリティー専門医である前に皆総合内科医であるとの理念から、サブスペシャリティーをローテート中も入院順番で総合内科症例も受け持ちます。さらに受け持った患者さんを自分の外来で継続的に診療できます。総合内科の一環として緩和医療を学ぶ場合、緩和ケア病棟だけではなく在宅医療も学べます。24 時間体制で入院・在宅の患者さんに対応する体制を整えており、ケアマネージャー・訪問看護との連携など地域包括医療を体験できます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 11 名, 日本内科学会総合内科専門医 16 名, 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本内分泌学会専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本肝臓学会専門医 1 名, 日本腎臓学会専門医 3 名, 日本透析医学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 4 名, 日本感染症学会専門医 1 名, 日本アレルギー学会専門医 1 名, 日本緩和医療学会認定医 2 名 ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 5,301 名(1ヶ月平均) 入院患者 321 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携, 在宅医療や緩和ケア医療なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会日本専門医機構内科専門研修プログラム基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定基幹施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 など

3. 川崎市立川崎病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されている。 ・川崎市会計年度任用職員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(川崎市総務部担当)がある。 ・ハラスメントに対しては職員衛生委員会が病院に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 34 名在籍している(2024 年 6 月現在)。 ・内科専攻医研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている(2023 年度実績: 医療倫理 1 回。医療安全と感染対策については e-learning としてオンデマンドで実施)。 ・研修施設群合同カンファレンス(2024 年度予定)を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている(2023 年度実績: 1 回)。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・JMECC を年 1 回院内で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている(例年の開催実績あり)。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、リウマチ膠原病、アレルギー、感染症、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会総会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表を目標とし実行している(2023 年度: 地方会 10 演題。2022 年度: 地方会 9 演題。2021 年度: 地方会 9 演題, 総会 2 演題。2020 年度: 地方会 5 演題, 総会 3 演題。2019 年度: 地方会 9 演題)。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>野崎博之(病院長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>川崎市立川崎病院は川崎市南部医療圏の中核的な急性期病院です。Common disease の診療はもとより、高度の専門性を要する疾患、超高齢社会ならではの複数の病態を持った患者の診療や、高次病院や地域病院との病病連携、診療所(在宅訪問診療所を含む)との病診連携を経験できます。</p> <p>主担当医として、入院から退院(初診・入院から退院・通院)までを継続的に診療し、一人一人の患者の全身状態、社会的背景、療養環境調整をも含めた全人的医療を実践できます(内科各分野をローテーションするのではなく、一人の患者に継続して携わることを重視しています)。</p> <p>救命救急センターがあり、三次救急の診療および集中治療を要する内科系疾患の診療を経験できます。</p> <p>各分野に専門スタッフがおり、気軽に相談できる環境です。分野ごとに多数のカンファレンスや回診を行っています。一方、内科1科としてのまとまりを大切にしており、内科全体でのカンファレンスも開催しています。</p> <p>研究会、講演会、講習会、学会など、知識を習得する機会が豊富にあります。臨床研究を支援する部署があり、院外での研究会や学会での発表、論文の執筆を通して、リサーチマインドの素養の習得と発表能力を高めることができます。</p> <p>消化器内視鏡検査、気管支鏡検査、超音波検査(腹部・心臓・関節)、心臓カテーテル検査、脳波、筋電図、脳血管造影、血液透析など、希望に応じた専門的研修</p>

	<p>を受けることができます。</p> <p>当院の特色は、内科 1 科としてのまとまりと高い専門性の両立です。内科医の基礎となる知識と技能を備え、ホスピタリストやかかりつけ医として活躍でき、かつ内科救急医療にも対応できる内科総合診療医 (general physician) の育成を目指しています。また各分野の subspecialty 研修も可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 34 名、 日本内科学会認定内科医 34 名、 日本内科学会認定総合内科専門医 23 名、 日本消化器病学会認定消化器病専門医 7 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 6 名、 日本循環器学会認定循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会認定血液専門医 3 名、 日本神経学会認定神経内科専門医 4 名、 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医 1 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本感染症学会感染症専門医 2 名、 老年医学会老年病専門医 1 名、 日本救急医学会認定救急科専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 0 名、 日本内科学会内科専門医(新制度)2 名、 内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医(新制度)1 名 (2024 年 6 月現在)</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者延数 300,360 名/年(内科 109,130 名/年), 入院患者数 464.7 名/日 (内科 211.8 名/日), 新入院患者数 13,973 名/年(内科 4,913 名/年)(2023 年度)</p>
経験できる疾患群	<p>J-OSLER の研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会を反映した地域に根ざした医療や、病診・病病連携などを経験できる。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会新専門医制度基幹施設(旧・日本内科学会認定教育病院) 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本腎臓学会認定医研修施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設</p>

	日本集中治療医学会専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院 日本認知症学会認定教育施設 日本胆道学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本血栓止血学会認定施設 など
--	---

4. 北里大学北里研究所病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・北里研究所病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(臨床教育センター職員担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 19 名在籍しています(下記)。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年度実績 各 2 回開催)。 ・CPC を定期的に開催(2022 年度実績 3 回)。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、アレルギー、感染症、救急、膠原病、血液内科は標榜していないものの、実際の臨床ではほぼ全て分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績なし、内科系学会 43 演題うち 10 演題が研修医)を予定しています。
指導責任者	福田 誠一 【内科専攻医へのメッセージ】 北里研究所病院は総合病院であり、内科系も多くの専門科を有しています。救急医療を含めた幅広い疾患の症例をそれぞれの専門家の指導の下に経験することができます。腫瘍性疾患、感染症、救急疾患の症例数も豊富です。同時に地域に密着した病院でもあり近隣の住民との関係も深く、また総合内科を診療科として持っており、連携施設としてバイアスの少ない一般的な疾患のプライマリーケアも研修可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 19 名、 日本内科学会総合内科専門医 6 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 217,184 名(2022 年度) 入院患者 57,176 名(2022 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設

	日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定関連施設 など
--	--

5. 国立がん研究センター中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医は 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2022 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2022 年度 多地点合同メディカル・カンファレンス 15 回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2022 年度実績 15 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的研究倫理委員会を開催(2022 年度実績 12 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的治験審査委員会を開催(2022 年度実績 24 回)しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>野中 哲</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療(標準治療、臨床試験・治験)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 6 名、 日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 26 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 43 名、 日本血液学会血液専門医 13 名、 ほか</p>
外来・入院患者数 経験できる疾患群	<p>新入院患者数(延数)19,566 名、総外来患者(延数)376,470 名(2023 年度)</p> <p>1. 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマーゼンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。</p>

	2.研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1.日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療(標準治療、臨床試験・治験)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2.技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 日本緩和医療学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本産科婦人科学会 日本小児科学会 日本消化管学会 日本消化器内視鏡学会 日本カプセル内視鏡学会 日本消化器病学会 日本精神神経学会 日本胆道学会 日本超音波医学会 日本乳癌学会 日本臨床腫瘍学会 など

6. 国立成育医療研究センター病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院ではありません ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。 ・敷地内および病院近傍に院内保育所があり, 利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は認定施設でないため指導医 0 名ですが, 申請によって指導医となる資格を持つものが 3 名常勤しています。 ・研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 医療倫理 2 回(複数回開催), 医療安全 2 回(各複数回開催), 感染対策 3 回(各複数回開催))し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行う CPC, もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2014 年度実績 病診, 病病連携カンファレンス 2 回)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 内分泌内科, 糖尿病内科, 腎臓内科, リウマチ科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>荒田 尚子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は成育医療(リプロダクションサイクルに照準をあてた医療)を行うナショナルセンターで, 妊娠・出産を内科の立場でサポートする目的で母性内科が設置されています。慢性疾患を持ちながら妊娠する女性の内科的管理や妊婦さんの偶発的な疾患の診断・治療に対応しています。今後内科を専攻していく上で, 妊婦さんを診療する機会や慢性疾患を持つ女性患者さんから妊娠について相談を受けることがあります。この研修では, そのような時に役立つ診療技術を身に着けることができます。特に, 妊娠と薬情報センターのスタッフを兼ねており, その抄読会や外来業務や研修会などの経験から, その基本理念や最新の情報を得ることができます。また, 臨床研究を行っているスタッフが多いので, カンファレンスなどを通じて臨床研究の現場の雰囲気に触れることができます。また, 産科医をはじめとする他科と併診する機会が多く, 幅広い人材との交流ができます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 0 名(現在は認定施設でないため), 日本内科学会総合内科専門医 6 名, 日本内分泌学会指導医 1 名, 日本糖尿病学会指導医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本リウマチ学会指導医 1 名, 日本感染症学会指導医 1 名, 日本アレルギー学会専門医 1(分科学会の専門医は重複しています)</p>

外来・入院患者数	外来患者 938 名(1 日平均) 入院患者 406 名(1 日平均)
経験できる疾患群	妊娠前から妊娠中, 産後の女性を対象とした母性内科です. 症例数としては妊娠糖尿病や橋本病が多く, 膠原病合併妊娠やバセドウ病合併妊娠など, 通常は経験する機会の少ない症例も多く経験できます. また, 妊娠は将来の生活習慣病を予知する負荷テストともいわれていますが, このような観点から女性を健やかな中高年に導くための方法を学びます.
経験できる技術・技能	母性内科にとって妊娠・授乳中の薬物治療が重要ですが, 妊娠と薬情報センターのスタッフを兼務しており, 抄読会や外来業務の参加などにより専門的な知識を身に着けることができます.
経験できる地域医療・診療連携	合併症妊娠を希望する患者さんの病診連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定施設 臨床遺伝専門医制度研修施設など

7. がん研有明病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(相談窓口)があります。 ・ハラスメントに対応する委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に複数の保育施設があります。また、福利厚生サービス(ベネフィットステーション)に加入しており、通常よりも割安に施設を探すことができます。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 18 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(各複数回開催また研修開始時は必須)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、5 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>高野 利実</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>がん研究会有明病院は国内最大規模のがん専門病院であり、若手医師の教育・育成にも力を入れています。内科専門研修の連携施設として、呼吸器内科、消化器化学療法科、乳腺内科、総合腫瘍科、血液腫瘍科等が研修を担当します。ご希望があれば、複数の診療科をローテーションすることも可能です。</p> <p>豊富ながん症例の診療にあたりながら、がんの診断、治療、支持療法など、幅広い経験を積み、がん診療の技術や考え方を習得できるように指導します。</p> <p>専門医療だけでなく、内科専門医として、患者の幸せを目指し、全人的医療を実践できるような指導も心掛けています。</p> <p>腫瘍内科専門医を目指す方はもちろん、そうでない方も、最先端のがん医療に触れる貴重な機会ですので、是非当院での研修をご検討ください。お待ちしております！</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 41 名ほか
外来・入院患者数	外来 425,968 名(年間) 入院 18,096 名(年間)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 5 領域、15 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など</p>
-------------------------	--

8. 慶應義塾大学病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・北里図書室にインターネット環境があり、電子ジャーナル・各種データベースなどへアクセスできます。 ・慶應義塾大学大学後期臨床研修医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処するストレスマネジメント室があり無料カウンセリングも行っていきます。 ・ハラスメント防止委員会が慶應義塾大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室・休憩室が整備されています。 ・病院から徒歩 3 分のところに慶應義塾保育所があり、病児保育補助も行っていきます。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 113 名在籍しています(下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者, 副統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医))にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する医学教育統轄センターがあり、その事務局として専修医研修センター、および内科卒後研修委員が設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績 医療倫理 2 回, 医療安全 8 回, 感染対策 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2022 年度実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(医師会と合同主催の講演会や研究会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野(総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2022 年度実績 10 演題)をしています。 ・各専門科においても内科系各学会において数多くの学会発表を行っております(2022 年度実績 229 演題)。 ・臨床研究に必要な図書室, 臨床研究推進センターなどを整備しています。
<p>指導責任者</p>	<p>甲田 祐也 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>慶應義塾大学病院は、東京都中央部医療圏に位置する 950 床を有する高度先進医療を提供する急性期中核医療機関です。また、関東地方を中心とした豊富な関連病院との人事交流と医療連携を通して、地域医療にも深く関与しています。歴史的にも内科学教室では臓器別の診療部門をいち早く導入したことで、内科研修においても全ての内科をローテートする研修システムを構築し、全ての臓器の病態を把握し全身管理の出来る優れた内科医を多く輩出してきました。</p> <p>本プログラムでは、内科全般の臨床研修による総合力の向上と高度な専門的研修による専門医としての基礎を習得することだけではなく、医師としての考え方や行動規範を学ぶことも目的としています。</p> <p>また、豊富な臨床経験を持つ、数、質ともに充実した指導医のもと、一般的な疾患だけではなく、大学病院特有の高度先進医療が必要な疾患を含めて、1 年間で内科全般の臨床研修ができることが本コースの強みのひとつです。さらに、大学病</p>

	<p>院のみならず、豊富な関連病院での臨床研修を行うことで、バランスのとれた優秀な内科医を育成する研修カリキュラムを用意しています。</p> <p>以上より、当プログラムの研修理念は、内科領域全般の診療能力(知識、技能)を有し、それに偏らず社会性、人間性に富んだヒューマンイズム、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドをバランスよく兼ね備え、多様な環境下で全人的な医療を実践できる医師を育成することにあります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医113名、 日本内科学会総合内科専門医 84 名、 日本肝臓学会専門医 14 名、 日本消化器病学会消化器専門医 42 名、 日本循環器学会循環器専門医 37 名、 日本内分泌学会専門医 11 名、 日本腎臓学会専門医 22 名、 日本糖尿病学会専門医 12 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、 日本血液学会血液専門医 12 名、 日本神経学会神経内科専門医 18 名、 日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、 日本リウマチ学会専門医 18 名、 日本感染症学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 3221 名(2022 年度実績 1 日平均) 入院患者 810.7 名(2022 年度実績 1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会教育病院</p>

	<p>ICD/両室ペーシング植え込み認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本肥満学会認定肥満症専門病院</p> <p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設</p> <p>ステントグラフト実施施設</p> <p>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設</p> <p>日本リウマチ学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会指導医指定施設</p> <p>日本臨床検査医学会認定研修施設</p> <p>日本病院総合診療医学会認定施設</p> <p>日本カプセル内視鏡学会指導施設</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導施設</p> <p>など</p>
--	---

9. 国家公務員共済組合連合会 立川病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・立川病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ハラスメント委員会が立川病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会指導医が 23 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022 年度実績 日本専門医機構認定共通講習会 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2022 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます(2022 年度 JMECC 開催実績 1 回)。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <p>専門研修に必要な剖検(2022 年度実績 8 体)を行っています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2022 年度実績 5 演題)をしています。 ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに、英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会があり、学術的な指導を受けることができます(2022 年度内科系学会発表数 44 演題、英文論文 9 編・和文論文 8 編)。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。
<p>指導責任者</p>	<p>森谷 和徳(副院長・内科専門研修プログラム統括責任者)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は東京都北多摩西部二次医療圏における最大規模の高度急性期総合病院です。2017 年には新病院棟が完成しました。新病院棟は「機能性」「安全性」「快適性」「環境への配慮」などのコンセプトのもと設計されています。</p> <p>地域医療支援病院、東京都災害拠点病院、東京都地域救急医療センター、東京都認知症疾患医療センター、東京都地域周産期母子医療センター、東京都エイズ拠点病院、第二種感染症指定病院、東京都がん診療連携拠点病院、難病医療協力医療機関、東京都 CCU ネットワーク加盟機関などの指定を受けており、「大学病院に勝るとも劣らない医療水準」を目指しています。人の一生に関わるトータルケアを実践している当院は、「赤ちゃんからお年寄りまで」をモットーにしています。</p> <p>全人的医療を実現するべく、あらゆる疾患に対応できるように、研修医のみならずスタッフ医師も日々学んでいく姿勢を大事にしています。内科スタッフが協力して一人の患者さんを診療する風通しの良い体制を誇りとしています。</p> <p>特に得意としている疾患は次の通りです。</p> <p><呼吸器内科></p>

	<p>肺がん, 肺炎, 喘息・COPD, 間質性肺炎, 非結核性抗酸菌症, 睡眠時無呼吸症候群</p> <p><循環器内科> 急性心筋梗塞や狭心症のカテーテル治療(東京都 CCU ネットワーク加盟機関), 糖尿病患者等の虚血性心疾患スクリーニング, 心不全, 不整脈</p> <p><消化器内科> 上部・下部消化管内視鏡手術, 炎症性腸疾患, 肝臓病</p> <p><脳神経内科>脳卒中, 認知症(東京都認知症疾患医療センター), パーキンソン病, 多発性硬化症, 重症筋無力症</p> <p><血液内科> 悪性リンパ腫, 白血病, 多発性骨髄腫, 白血球増多, 血小板減少</p> <p><腎臓内科> CKD, 検尿異常から末期腎不全まで</p> <p><糖尿病・内分泌代謝内科> 糖尿病, 糖尿病合併妊娠</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 23 名, 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名, 日本肝臓病学会肝臓専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本内分泌学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名, 日本血液学会血液専門医 3 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名, 日本アレルギー学会専門医 1 名, 日本感染症学会感染症専門医 1 名 ほか(2022 年度)</p>
外来・入院患者数	<p>内科全体で, 外来患者数 5,477 人, 延べ入院患者数 4,011 人, 新入院患者数 251 人(2022 年度 1 ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>地域医療支援病院に指定されており, 高度急性期医療だけでなく, 北多摩西部保健医療圏の伝統と実績と信頼のある中核病院として, 地域に根ざした医療, 病診・病病連携を経験できます。東京都の委託事業として, 脳卒中医療連携推進協議会(事務局), 地域拠点型認知症疾患医療センター, 糖尿病医療連携協議会(事務局), 東京都 CCU ネットワーク加盟機関で地域連携事業に主導的役割を果たしています。周産期母子医療センター, MPU(精神科身体合併症病棟)も設置されており, 産科, 小児科, 精神神経科関連の医療連携も多数経験することができます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設</p>

日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

10. 東京歯科大学市川総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京歯科大学市川総合病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)があります。 ・ハラスメント防止対策委員会が大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 20 名在籍しています(下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(内科部長)、プログラム管理者(内科准教授)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2016 年度実績 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2017 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2016 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(市川リレーションシップカンファレンス(地域医師会員をはじめとする地域医療従事者を対象):2016 年度実績 5 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2016 年度開催実績 2 回:受講者 12 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記) ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2016 年度実績 20 体、2015 年度 13 体)を行っています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催(2016 年度実績 6 回)しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2016 年度実績 6 回)しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2016 年度実績 6 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>大木 貴博 【内科専攻医へのメッセージ】 東京歯科大学市川総合病院は、千葉県東葛南部医療圏の代表的な総合病院の一つであり、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院の機能を有して精緻な医療を提供しています。救急診療も含めて各内科専門分野の高度な医療を学びながら、豊富で貴重な経験が得られます。地域医療を理解することで幅広い知識をもった有能で人格の優れた医療人を目指します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 20 名、 日本内科学会総合内科専門医 16 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、</p>

	日本糖尿病学会専門医 2名, 日本腎臓病学会専門医 2名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名, 日本血液学会血液専門医 1名, 日本神経学会神経内科専門医 4名, 日本リウマチ学会専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 9,694名(1ヶ月平均) 入院患者 1,098名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳(疾患群項目表)にある13領域,70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会教育関連施設 など

11. 東京大学医科学研究所附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(産業医、なんでも相談室)があります。 ・東京大学ハラスメント相談所が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医が 16 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研究倫理研修会、臨床試験研修会を定期的に開催しています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、感染症、アレルギーおよび膠原病、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>四柳 宏</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東京大学医科学研究所附属病院は感染症、膠原病、血液疾患に関して専門的な診療を行っている病院です。医科学研究所の附属病院という性格をもち、新しい医療の開発を目指した臨床研究や先端医療の開発にも力を入れています。小規模病院の特徴を活かして各科の連携も緊密であり、患者様に質の高い医療を提供しています。アカデミックな雰囲気に触れながら、専門的な診療にじっくりと取り組んでみたい内科専攻医の方々を歓迎いたします。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 16 名、</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 22 名</p> <p>日本血液学会専門医 14 名、</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 4 名、</p> <p>日本感染症学会 3 名、</p> <p>日本リウマチ学会専門医 3 名、</p> <p>日本肝臓学会専門医 2 名、</p> <p>日本アレルギー学会専門医 1 名、</p> <p>日本内分泌学会専門医 1 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者数: 108.4 人(1日あたり)、入院患者数: 40.7 人(1日あたり)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域のうち、「血液」「感染症」「膠原病および類縁疾患」において十分な症例の経験ができ、それに付随する疾患に関する経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	近隣のクリニックからの紹介症例や、総合病院との診療連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設
-----------------	---

12. 横浜市立市民病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市非常勤特別職職員として労務環境が保障されています。 ・職員の健康管理・福利厚生を担当する部署(総務課職員係)があります。 ・ハラスメント対策が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用が可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新基準による指導医が 37 名在籍しています。 ・内科専門研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査には原則内科専門研修プログラム責任者及び事務局が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、内分泌、代謝、血液、感染症、膠原病、アレルギーおよび救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群について研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに、英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会があり、学術的な指導を受けることができます。 ・臨床試験管理室を設置し、定期的受託研究審査委員会を開催しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・利益相反委員会(COI 委員会)を設置し、定期的開催しています。
<p>指導責任者</p>	<p>仲里 朝周(副病院長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>自他ともに認める高度急性期医療を担っている病院で、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院に指定されているなど、日常よく遭遇する common disease から高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます。質の高い内科医となるだけでなく、医療安全を重視し、地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験して患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行うことができる内科医を育成することを目指しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 37 名、 日本内科学会総合内科専門医 20 名、</p>

	<p>日本消化器病学会消化器専門医 10 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 10 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名, 日本血液学会血液専門医 5 名, 日本神経学会神経内科専門医 4 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名, 日本透析医学会透析専門医 3 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名, 日本感染症学会感染症専門医 2 名, 日本緩和医療学会緩和専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	<p>2023 年度内科系全体の外来患者延べ数 124,343 人/年 内科系全体の退院患者数 8,082 人/年</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本透析医学会認定医制度専門医修練施設 日本血液学会認定研修施設 日本骨髄移植推進財団認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設</p>

13. 平塚市民病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として採用され、安定した身分保障および労務環境が整えられています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。 ・ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、週 2 日は 24 時間利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医が 16 名(2024 年度)在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2019 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 14 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・研修施設群合同カンファレンス(2021 年度予定)を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・地域参加型のカンファレンス(2019 年度実績 4 回、全診療科含め 22 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。また、血液、膠原病についても非常勤医師の指導の下、外来入院診療を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2019 年度 実績 8 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>高木俊介</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています。</p> <p>高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。</p> <p>平成 28 年度に新棟がオープンし、ゆったりとした外来・病棟、最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新棟内に設置されています。また 320 列 CT や IVR-CT などの先進機器に加えて、新棟開設に伴い最新鋭のリニアックも設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています。</p> <p>内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており、救急医療に関しては、平塚市民病院救命救急センターを有し救急科専門医を中心に湘南西部地域の中心病院として高度急性期疾患にも対応しています。</p> <p>さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 16 名、 日本内科学会総合内科専門医 12 名</p>

	<p>日本消化器病学会消化器専門医 3名, 日本肝臓学会肝臓専門医 2名, 日本消化器内視鏡学会専門医 3名, 日本循環器学会循環器専門医 5名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名, 日本神経学会神経内科専門医 3名, 日本救急医学会救急科専門医 6名, ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 18,718名(1ヶ月平均) 入院患者 353名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群のうち, かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期, 急性期医療のほか, 回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療, さらに高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳神経学会専門医研修施設 厚生労働省指定臨床研修病院 など</p>

14. 栃木県済生会宇都宮病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・栃木県済生会宇都宮病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するためカウンセラーへの相談が可能です。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 27 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、プログラム管理者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年度実績 医療倫理 2 回, 医療安全 5 回, 感染対策 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2022 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度 1 回開催)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に対応可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修に必要な図書室を整備しています。文献検索:Uptodate, DynaMed, メディカルオンライン, 医中誌等利用可能です。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床試験管理室, 臨床研究実験室を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2023 年度実績 3 演題)を予定しています。
<p>指導責任者</p>	<p>増田 義洋 【内科専攻医へのメッセージ】 栃木県宇都宮市の中心的な急性期病院である済生会宇都宮病院を基幹施設として、近隣の医療圏および東京都にある連携施設で内科研修をおこない、急性期医療から外来での管理まで包括的に対応できる内科専門医をめざします。連携施設には地域医療を主に行っている施設と県立がんセンター・複数の大学病院を含んでおり、common disease から希少疾患まで、多くの症例を経験することができるのが特色です。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 27 名, 日本内科学会総合内科専門医 24 名, 日本消化器病学会消化器専門医 5 名, 日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本内分泌学会専門医 2 名,</p>

	日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名, 日本血液学会血液専門医 1 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 1,273 名(1 日平均) 入院患者数 1,358 名(月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

15. JA 佐野厚生連佐野厚生総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・佐野厚生総合病院 常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する産業医，安全衛生委員会があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・病院が運営しているつばみ保育園が敷地内にあり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全(各年 2 回)，感染防御に関する講習会(年 2 回) ※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。 ・CPC(基幹施設 2023 年度実績 6 回) ・研修施設群合同カンファレンス ・地域参加型のカンファレンス(紹介症例報告会，地域がん診療連携合同カンファレンス，多種職交流会など) ・JMECC 受講 ・内科系学術集会(下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照) など ・地域参加型のカンファレンス: 佐野内科医会，わたらせ地区医療連携講演会，佐野糖尿病懇話会，佐野肝臓病勉強会，佐野足利呼吸器勉強会 など
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表、日本腎臓学会、日本内分泌学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会、日本透析医学会など内科系の学会での実績があります。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>内科主任部長: 井上 卓</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>佐野厚生総合病院は佐野市民約 12 万人を支える急性期病院であり，消化器内科・腎臓内科・糖尿病内科・呼吸器内科・循環器内科の専門的医療を中心に内科のすべての分野の診療を地域の施設と連携して行っております。消化器内科に関しては，消化管や肝胆膵疾患全般，特に内視鏡による専門的治療・炎症性腸疾患・癌化学療法などに取り組んでおります。腎臓内科に関しては，腎生検・腎病理カンファレンス・血液浄化法のすべてを経験する環境が整っており専門的な指導ができます。呼吸器内科は，肺癌・間質性肺疾患などに関して地域で有数の症例を有しており専門家が指導できます。循環器内科は，カテーテル治療・ペースメーカー植え込みなど，虚血性心疾患および不整脈の急性期治療を行っております。</p> <p>初期研修は 13 連続フルマッチであり，12 人の初期研修医がおります。</p> <p>また，慶應義塾大学内科学教室から学生研修を受け入れております。</p> <p>佐野市内の内科のすべての分野の患者がおおむね第一に当院に来院しますので，幅広い範囲の症例の経験ができ，臓器に特化しない幅広い内科全般の研修をする環境が整っております。慶應義塾大学・自治医科大学から，血液内科・神経内科・リウマチ内科の専門医が外来パートに来ており常勤医不在の分野での研修も担保しております。</p> <p>また主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 11 名， 日本内科学会総合内科専門医 10 名， 日本消化器病学会専門医 6 名，</p>

	<p>日本循環器学会専門医 2 名, 日本腎臓病学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会専門医 2 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名, 日本肝臓学会認定肝臓専門医 5 名, 日本透析医学会専門医 2 名, 日本高血圧学会指導医 2 名 など</p>
外来・入院患者数	<p>2023 年度(1 ヶ月平均): ※いずれも内科のみ 外来患者=6,522 名, 救急車受け入れ=96 名, 新規入院患者=310 名</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域・70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.</p>
経験できる地域医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病々連携なども経験できます. ・佐野市地域医療連携協議会では, かかりつけ医・佐野厚生総合病院の主治医や地域介護職員などが参加し, 看取りの医療, 病診連携についての幅広い研修ができます.
学会認定施設 (内科系)	<p>日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会教育施設 日本糖尿病学会教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設</p>

16. さいたま市立病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・さいたま市非常勤医師として労働環境が保障されている。 ・ハラスメント委員会がさいたま市役所に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 26 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長・消化器内科部長)、プログラム管理者(循環器内科部長)(ともに指導医))にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置する。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的開催し(2023 年度実績 5 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的開催し(2023 年度実績 4 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(さいたま市立病院・JCHO 埼玉メディカルセンター合同カンファレンス(年 3 回)、浦和循環器勉強会(年 1 回)、臓器保護研究会(年 1 回)、消化器病診連携勉強会(年 1 回)、肺癌症例検討会(年 1 回)、さいたま市神経カンファレンス(年 3 回)、Neurology Frontier in Saitama(年 1 回)、さいたま神経生理てんかん研究会(年 1 回)、浦和医師会合同糖尿病勉強会(年 2 回)、糖尿病プライマリーケア研究会(年 2 回)、さいたま血液勉強会(年 2 回)、さいたま市リウマチ合同カンファレンス(年 4 回))を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度実績 2 回:受講者 12 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応する。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検(2021 年度 16 体、2022 年度 16 体、2023 年度 10 体)を行っている。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、コンピュータ室などを準備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催(2023 年度実績 10 回)している。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催(2023 年度実績 12 回)している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表をしている。
<p>指導責任者</p>	<p>金子 文彦 【内科専攻医へのメッセージ】 さいたま市立病院は、埼玉県さいたま医療圏の中心的な急性期病院であり、同じくさいたま医療圏の中心的な病院であるさいたま赤十字病院、JCHO 埼玉メディカルセンター、さいたま市民医療センター、あるいは同じ県内で隣接医療圏の中心的な病院である独立行政法人国立病院機構埼玉病院、北里大学メディカルセンターと病院群を組むことにより連携し、相互補完しながら、質の高いきめ細かな指導を行ってゆきます。これら病院は、距離的にも適度な位置関係にあり、合同カンファレンスを行う上での利便性はもちろんのこと、専攻医は研修期間の 3 年間を通して転居することなく、これらいずれの病院でも研修が可能です。加えて、都内で</p>

	も東京都済生会中央病院、国家公務員共済組合連合会立川病院と連携しており、異なる医療圏内での研修も可能です。栃木県の医療過疎地域の連携病院である足利赤十字病院や佐野厚生総合病院での研修も可能で、地域の医療を一手にささえる総合病院の医療を経験し、研修することもできます。さらに、慶応義塾大学病院、東京女子医大病院、杏林大学病院と連携し、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできます。令和 6 年度からは、さらに埼玉医科大学総合医療センターや佐野厚生総合病院とも連携を開始しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 26 名、 日本内科学会総合内科専門医 20 名、 日本消化器病学会専門医 8 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 265,824 名 入院患者 16,310 名
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設

17. 国立病院機構埼玉病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構埼玉病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(管理課長担当)があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 21 名在籍しています(下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者:小野智彦)を設置し、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・基幹施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専門医研修部を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2023 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う(予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う(2023 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス: 朝霞地区医師会合同カンファレンス(2023 年度実績 1 回)、 朝霞地区医師会循環器勉強会(2023 年度実績 2 回)、 朝霞地区医師会画像診断研究会(2023 年度実績 12 回)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC(2023 年度実績 4 回)受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専門医研修部が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度実績 8 体、2020 年度 5 体、2021 年度 6 体、2022 年度 5 体、2023 年度 2 体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究部が設置されており、リサーチマインドを涵養する研究環境が整っています ・臨床研究に必要な図書室、写真室、図書室、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行う(2018 年度実績 7 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行う受託研究審査会を開催(2018 年度実績 11 回)しています。 ・内科系学会(日本内科学会とサブスペシャリティの学会)で年間計 22 演題会発表(2018 年度実績)をしています。 ・国立病院総合医学会が毎年開催されており、日常の臨床の成果等を発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>小野 智彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構埼玉病院は、埼玉県南西部医療圏の中心的な急性期病院です。東京都との県境に位置(池袋から 10km)するため、埼玉県の近隣医療圏の病院(さいたま市立病院・JCHO 埼玉メディカルセンター、国立病院機構西埼玉中央病</p>

	<p>院)と都内の病院(慶應義塾大学病院・日本大学医学部附属板橋病院・杏林大学医学部付属病院・練馬総合病院・国立病院機構東京医療センター・国立病院機構災害医療センター・東京都済生会中央病院・国家公務員共済組合連立立川病院)と連携して内科専門研修を行います。</p> <p>地方の急性期病院である済生会宇都宮病院、佐野厚生総合病院、地方の大学病院として産業医科大学病院、また慢性期病棟、地域包括ケア病棟のケアミックス型の病院である国立病院機構宇都宮病院とも連携し様々な経験を積むことができます。これらの病院での研修を通じて、多様な状況下で内科医としての能力を発揮する事のできる、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します。</p> <p>主担当医として、患者の疾患の診断・治療に携わるのはもちろん、高齢者社会に向かいますます必要とされる患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 21名, 日本内科学会総合内科専門医 20名, 日本消化器病学会専門医 8名, 日本肝臓学会専門医 2名, 日本循環器学会専門医 13名, 日本内分泌学会専門医 1名, 日本糖尿病学会専門医 名, 日本腎臓病学会専門医 1名, 日本呼吸器学会専門医 名, 日本血液学会専門医 2名, 日本神経学会専門医 4名, 日本アレルギー学会専門医 3名, 日本リウマチ学会専門医 1名, 日本感染症学会専門医 名, 日本老年医学会専門医 3名, 日本緩和医療学会専門医 1名, ほか.</p>
外来・入院患者数	2023年度実績 外来患者 265,046名 入院患者 14,592名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定病院 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など</p>

18. 国立病院機構東京医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・期間付常勤職員としての労務環境を保障 ・専攻医寮有(駐車場有り) ・図書室とインターネット環境有り(蔵書数単行本約 4000 冊, 製本約 33000 冊, 継続雑誌約 300 タイトルの医中誌, メディカルオンライン, ProQuest など各種文献検索サービスあり) ・院内保育園有り ・委員会・ワーキング等の設置有り(メンタルストレス対策, ハラスメント委員会, ワークライフバランス向上ワーキング等) ・授乳室, 女性用休養室有り ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院(臨床研修実施は 50 年以上)
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医常時 40 名程度 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る ・CPC カンファレンス年間 5 回程度実施 ・JMECC インストラクター資格 2 名 ・内科専門研修事務局設置 ・各種研修会等 <ul style="list-style-type: none"> ①医療倫理講習会 ②医療安全講習会・研修会 ③感染対策・ICT 講習会 ④研修施設群合同カンファレンス ⑤がんセンターボード ⑥EBM ワークショップ ⑦「医療を考える」シンポジウム ⑧AHA BLS コース, AHA ACLS コース ⑨地域医療カンファレンス ⑩JMECC 講習会 ⑪臨床研究セミナー ⑫生物統計セミナー 等 ・臨床研究センター(感覚器センター)併設
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床数(医療法)640 床(一般 640 床[うち救命救急病床 28 床]) ・高度専門医療施設: 感覚器 ・基幹医療施設: がん ・専門医療施設: 循環器, 腎疾患, 内分泌・代謝性疾患, 免疫疾患, 血液・造血器疾患, 成育医療, 精神疾患 ・特色: 救命救急センター, エイズ治療拠点病院, 東京都災害医療拠点病院, 管理型臨床研修指定病院, 臓器提供施設, 地域医療支援病院, 地域がん診療連携拠点病院, 東京都脳卒中急性期医療機関, 周産期連携病院, がんゲノム医療連携病院 ・内科剖検数: 約 21 体程度/3 年
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究センター設置(希望する専攻医は臨床研究センターに所属して研究に従事することが可能. 疫学的手法を用いた臨床研究の手法についての理解を深めることも可能.) ・倫理審査委員会設置: 10 回/年開催 ・専攻医は内科臨床に関連する学会で症例報告を行う。(各種研究会及び学会総会や地方会での発表の指導を受けることができる.) ・2016 年度からは臨床研究支援センターを立ち上げ, 臨床研究を計画するもの

	<p>や実施する医師等に対し、倫理委員会への提出やデータマネジメント業務などの支援を行っている。</p> <p>・治験も積極的に行っている。</p>
指導責任者	内科専門研修プログラム責任者: 上野 博則
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医: 40 人
外来・入院患者数	外来: 328,259 人(1,440 人/日) 入院: 178,906 人(730 人/日)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、在宅医療、超高齢医療、病診・病病連携、地域包括ケア、アドバンス・ケア・プランニング
学会認定施設 (内科系)	<p>日本感染症学会研修施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設 (内科系)</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会研修施設</p> <p>日本循環器学会専門医研修施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士認定教育施設</p> <p>日本神経学会教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本脳卒中学会一次脳卒中センター</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本アレルギー学会教育施設</p> <p>日本がん治療認定機構研修施設</p> <p>日本緩和医療学会研修施設</p> <p>日本救急医学会専門医, 指導医指定施設</p> <p>日本心血管インターベンション学会研修関連施設</p> <p>日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設</p> <p>日本糖尿病学会教育施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>など</p>

19. 東京都済生会向島病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境	済生会向島病院常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全、感染対策研修会を定期的に開催(2023年度実績 医療安全 3回、感染対策 2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、糖尿病、神経、呼吸器、循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	
指導責任者	<p><内科専攻医へのメッセージ></p> <p>東京都済生会向島病院は、東京の下町、墨田区に所在する、内科系疾患を主体に診療にあたっている 102 床の小規模の地域密着型病院です。全国に展開している済生会81病院の一つであり、墨田区唯一の公的医療機関です。当院が目指す病院像として五本の柱を掲げています。①かかりつけ医機能を発揮する病院②主として内科系の中等度(症)までの急性期疾患、亜急性期、急性期後に対応する病院③高齢者の生活機能の改善・向上・維持(老年症候群対応)を支援する病院④在宅療養を支援する病院⑤生活困窮(社会的支援を必要とする)者を支援する病院。医療体制については役割分担、多職種協働を旨として地域完結型の医療を行なっています。</p> <p>地域での二次救急を担いつつ、予防・医療・介護福祉のシームレスな連携を行い地域包括ケアシステムの一部を担っています。</p> <p>糖尿病診療については伝統があり、区東部(墨田・江東・江戸川 3 区)の糖尿病診療の拠点となっています。その他、各内科 Subspecialty の専門医の指導のもとに主治医として様々な症例を経験できます。</p> <p>放射線診断については、CT・MRI は 24 時間撮影が可能であり、また済生会中央病院と遠隔診断の提携をしており、放射線診断医の報告を迅速に受けることができます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 4,953 名 入院患者 2,053 名 (R.5 年度 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	糖尿病は登録患者 2,100 名を超え十分な臨床経験を積むことができます。
経験できる技術・技能	
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療など在宅医療の経験もできます。
学会認定施設 (内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本消化器病学会関連施設 日本肝臓学会関連施設

別表 1
内科専門研修において求められている「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数
分 野	総合内科I(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科II(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科III(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4以上		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計 ※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7)※3
	症例数 ※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(すべて異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からは、それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例 + 「代謝」1例、 「内分泌」1例 + 「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること。病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。

別表 2
東京都済生会中央病院内科専門医研修 週間スケジュール (例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科 朝カンファレンス <各診療科 (Subspecialty) >					担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直/講習会・学会参加など	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直/講習会・学会参加など
	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察		
	内科外来診療 (初診)		内科外来診療<各診療科 (Subspecialty) >		内科検査<各診療科 (Subspecialty) >		
午後	入院患者診察	内科検査<各診療科 (Subspecialty) >	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察		
		入院患者診察	抄読会	内科入院患者カンファレンスと回診 <各診療科 (Subspecialty) >	救命救急センター/内科外来診療		
		地域参加型カンファレンスなど	講習会 CPC など				
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など						

- ★ 東京都済生会中央病院内科専門医研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。
- ・ 上記はあくまでも 1 例：概略です。
 - ・ 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・ 入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
 - ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科 (Subspecialty) の当番として担当します。
 - ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。